

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 04020091

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	15	環境の保全	事業優先度	A		
単位施策	4	ごみ・し尿処理の推進	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	雄武町廃棄物処理対策事業		見直し年度			
事業期間	平成26年度～平成29年度		担当課	4 住民生活課		
事業主体	雄武町		関係課	11 町有施設整備室		
事業指標	適切なごみ処理			#N/A		
事業目標	ごみ処理率		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 廃棄物処理及び清掃に関する法律		
住民協働			関係個別計画名	有 一般廃棄物処理基本計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	生ごみ処理の見直し 生ごみ処理施設建設の検討 資源ごみストックヤード建設検討 最終処分場延命化対策検討		生ごみ処理の見直し 生ごみ処理搬入用容器作成 (バイオマス投入用容器作成) 最終処分場延命化対策検討	有機性廃棄物性状分析 生ごみ処理見直し・施設建設検討 資源ごみストックヤード建設検討 最終処分場延命化対策検討	有機性廃棄物性状分析 生ごみ処理見直し・施設建設検討 資源ごみストックヤード建設検討 最終処分場延命化対策検討 分別収集計画の策定 焼却処理場トラックスケール取替工事	有機性廃棄物性状分析 生ごみ処理見直し・施設建設検討 最終処分場延命化対策検討 最終処分場境界測量委託 一般廃棄物処理基本計画の策定 焼却処理場境界測量委託	
	事業費(千円)	16,928	0	3,686	2,592	6,424	4,226
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	16,928		3,686	2,592	6,424	4,226	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	14,466	0	2,640	1,564	5,776	4,486
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	14,466		2,640	1,564	5,776	4,486	
特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】		生ごみ処理の見直し 生ごみ処理搬入用容器作成 (バイオマス投入用容器作成) 有機性廃棄物性状分析 最終処分場延命化対策検討	有機性廃棄物性状分析 最終処分場延命化対策検討	有機性廃棄物性状分析 最終処分場延命化対策検討 分別収集計画の策定 焼却処理場トラックスケール取替工事	有機性廃棄物性状分析 最終処分場屋根塗装工事 焼却処理場境界測量委託 最終処分場ネットポール製作工事	
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 C-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
前期計画からの継続	年度目標値		100%	100%	100%	100%	
	年度達成率	#DIV/0!	72%	60%	90%	106%	
第6期計画への継続	全体達成率	0%	16%	25%	59%	85%	
	備考欄						

事業名	雄武町廃棄物処理対策事業	評価者 管理職 職氏名	住民生活課長	安井雅憲
		評価者 作成者 職氏名	環境衛生係長	山口雄也

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内で発生する廃棄物	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	廃棄物処理率
【抱える課題やニーズは】	生活様式の多様化、経済発展に伴う生産拡大などを背景にする大量生産、大量消費、大量廃棄により排出されるごみの適正な処理	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	廃棄物を資源としてリサイクルする循環環境型社会の構築	① 廃棄物処理率	目標年度 平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	当町における廃棄物排出傾向に適したごみ処理体制の構築		目標値 100%
			実績値 100%
		②	達成度 100.0%
			目標年度 平成29年度
		目標値	
		実績値	
		達成度	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	生ごみ処理の見直し	生ごみ処理物をバイオマスの原料として売却し、併せて生ごみ処理物の性状分析を実施している。	
	焼却処理場境界測量委託	自治会からの要望により、焼却処理場と隣接する土地の境界を確定させた。	
	最終処分場ネットポール製作工事	埋立場所の移設に伴いごみの飛散防止対策のため、ネットポールを製作、設置した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	リサイクルの循環型社会の構築には、生ごみ処理方式の検討が必要であり、生ごみの性状分析は、本町における今後の生ごみ処理を行う上で実施が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	生ごみは、有価物として全量をバイオマス原料として売却しており、当町での処理が困難なことから有効な事業である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	生ごみ処理の性状分析検査委託業者はバイオマス施設を管理している業者であること、また、長期継続契約による委託を行うことにより、事業費の抑制が図られており効率的である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 人員削減	
課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	ごみ指定袋の有料化により、受益者負担も生じることから公平である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
リサイクルの循環型社会の構築は必要不可欠であり、生ごみの性状分析結果についてはバイオマス資源可否値を達成しているため、適正な処理がされている。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
リサイクル循環型社会を構築するには、ごみの適正処理、施設の適切な維持管理が必要であるため、今後も継続して進める必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止